

第 92 回 男子会勉強会（令和 6 年 10 月 13 日）

講義（会長先生）

芸術による魂の向上

御教え『芸術の使命』（実践編・芸術遍 218 ページ）

- ・ 天の使命 ⇒ 現界に存在
芸術家も人間社会に有用な役目を持っている。
高い品性により、人間の獣性を抜き品性を高める
- ・ 大衆との魂の連携
芸術家の魂から発する霊能 ⇒ 大衆の魂の琴線
手段：文学、絵画、音楽、演劇、映画等
- ・ 魂による大衆の指導者
芸術家の品性が高い ⇒ 大衆の情操を高められる
使命を自覚し、完全に遂行してこそ真の芸術
- ・ 楽しみながら魂を向上

御教え『歌集「山と水」に就いて』（実践編・芸術遍 221 ページ）

- ・ 御霊磨きの手法
 1. 難行苦行、災害等の苦
 2. 善徳を積むこと
 3. 高い芸術による感化 ⇒ 最も簡単で近道
- ・ 高い芸術による影響
常に触れる ⇒ 魂が向上 ⇒ 叡智を頂き頭脳明晰に ⇒ 信仰が楽に徹底する。
「山と水」は御讃歌集

御教え『尾形光琳』（実践編・芸術遍 247 ページ）

- ・ 日本独特の美… 5 名
本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳、尾形乾山、野々村仁清

○ 尾形光琳は明主様の一番のお気に入り

簡略・その実態を把握、写実以上に表現

無線描法に、図案風に

- ☆ 梅図（左） ⇒ 簡略化
- ☆ 椿図（右） ⇒ 無線、図案、たらしこみ
- ☆ 桔梗図（下） ⇒ 無線



御教え『物を識るという事』（実践編・芸術遍 238 ページ4行目）

○本阿弥光悦

書・絵・蒔絵・樂陶

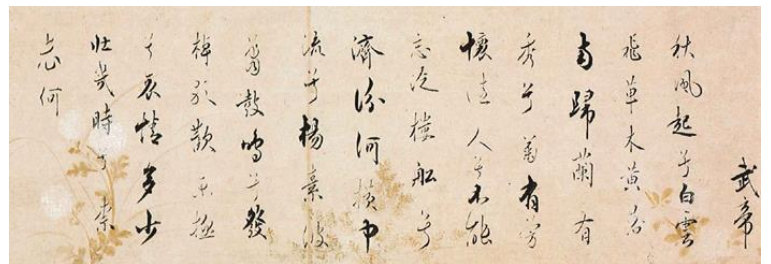
独創的・多芸ぶり、光琳を生み出した。

光悦の文字は一種独特で垂涎佳く能あるもの

☆中務（右）⇒強弱がある

☆西行（左）⇒晩年

☆秋風辞 漢武帝（下） ⇒能書家時代



○俵屋宗達

御教え『日本美術とその将来 一.絵画』（実践編・芸術遍 255 ページ1行目）

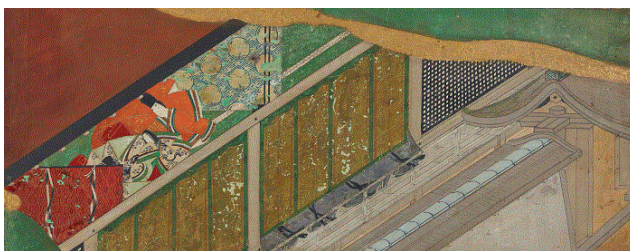
用意周到、〇〇の簡素化

御教え『日展を見て』（実践編・芸術遍 294 ページ B5 行目）

☆伊勢物語図（中） ☆連池白鷺図（右）

無線により立体感を出している

☆源氏物語（蛸）（左）



○尾形乾山

御教え『日本美術とその将来 四.陶器』（実践編・芸術遍 264 ページ5行目）

趣味横溢、光琳と合作

御教え『東洋美術雑感』（実践編・芸術遍 282 ページ B5 行目）

野人的（仁清は大宮人）



○野々村仁清

御教え『最初から絶対に自分の物を作ったのは仁清なんです…』

蒔絵

御教え『日本美術とその将来 二.蒔絵』（実践編・芸術遍 260 ページ 3 行目）

光悦と光琳は自由奔放、独自図案



御教え『光琳の二曲の屏風では、例の風神雷神と紅梅白梅と今の水鳥の屏風ですが、之は三つとも同レベルのものです。ですから、之は滅多に今迄人の目に触れなかつたものです。。』



芸術の役割

人間から獣性を抜き、品性・情操を高める事

高い芸術に常にふれさせて頂くことが、高い芸術による魂の向上となる

体験講義（小林先生）

御教え『風水害について』『低気圧は人災なり』（科学編 317 ページ）

体験講義（加畑先生） 御用について

体験講義（黒崎先生） 奥様の御浄化、多賀様の御活躍について

体験発表（林政樹） 結婚～奥様の御入信～御神体御奉斎

体験発表（家田善太） 昨年からの風邪の激しい御浄化、初代会長先生から近代農学部入試のすすめ等

講義（会長先生）

御教え『信仰の種類』（実践編・芸術遍 56 ページ）

・正しい信仰とは？

1～12 の信仰に該当せぬものが、正しい信仰

誤った信仰が多く、私達も陥りやすい。

1. お陰信心

お陰さえ貰えば良い、世の為、人の為ではなく、自分本位＝人間が上で神様が下になる。

一番陥りやすい信仰

御浄霊で救って頂きながら、それを自分で留めるのは『お陰信心』御恩報じ、御恵みを頂く

2. 景場信心 7.たがる信心

神様ではなく周りの“人”を見ている

判断の真の基準は“人”ではなく神様、利他愛

3. 有難信心

周り

”人”に対しては立派な信仰者

人類救済という”神様”の目的達成の意識がない

4. 利用信心 11.鯉節信心

神様を利用して自己の野心を遂げようとする。

人間が神様り上になり、あるべき関係の逆

5. 神憑信心

霊界の事を知りたがる。

神霊研究会（≠信仰）の仕事で人類救済の本道から外れやすい

6. 身欲信心

御利益目的の信仰

御守護御願の際に注意必要

人間の側で御守護を判断しない事。

7. ご無沙汰信心

やめたほうが良い

8. 浮気信心 10.気紛れ信心

一つの信仰（＝神様）を守れない ⇒ 本当の御利益ない。

御恩報じしてこそ御利益を頂ける。

12.贗信心

表面上は信仰者らしく見せかけ腹の底では神様を認めない。

長期間で神様が許さなくなる。

御教え『信心たれ』（実践編・芸術遍 155 ページ）

進歩向上への心掛け、特に信仰者は常に持っていなくてはならない。

大自然（＝神）は悉く進歩向上 ⇒ それに倣う

○表面ではなく人格向上

飽く迄、向上心、弛まぬように魂の向上を心掛け、焦らず気長に研鑽を積みれば必ず立派な人間へ

○世界の最先端に行く

想像を絶し、無限に向上発達する地上天国の住民になるには新人たるを心掛けねばならない。

○一回一回少しでも向上

拝読、御浄霊お取次ぎ、御用、参拝時全ての面で真の在り方に近づかせて頂けるように

○信徒の使命

自己愛信仰に陥らず、神様を見つめる事。常に進歩向上を心掛け、御恩報じさせて頂く事。

以上